

ルネッサンス・バロック期のリュート音楽

ヨーロッパの宮廷で愛用されたリュート

2005年10月30日(日曜日)

東京大学 駒場キャンパス 18号館ホール

プログラム

開演 15:00 ~

各時代のリュート音楽の解説と演奏

- 15世紀後半～16世紀前半。西ヨーロッパ全域でのリュート黄金時代。
声楽曲を中心としてリュート伴奏歌曲・声楽と器楽アンサンブルなど。
- 16世紀後半～17世紀初頭。イギリスの大航海時代。
多くのソロ作品、即興的要素を含む二重奏曲、個性豊かなリュート伴奏歌曲。
- 17世紀初頭～中頃。イタリアとフランス。
リュートが大型化し調弦も変化。フランスの時代は鍵盤音楽に多大な影響。
- 18世紀前半のドイツの時代。衰退しつつあったがドイツだけは例外。
バッハもリュートに関心。ソロ作品やカンタータ・受難曲でリュートを使う。

使用楽器

- ルネッサンス・リュート
- バロック・リュート
- テオルボ
- ジャーマン・テオルボ
- ソプラノ(歌手)

◇主催

東京大学大学院総合文化研究科 表象文化論コース

◇解説と演奏

名古屋リュート研究会